|  |
| --- |
| 会議の結果 |
| 件　　　名 | 令和４年度田辺市社会教育委員会議　第３回定例会 |
| 日　　　時 | 令和４年９月30日（金曜日）　　10時15分～12時05分 |
| 場　　　所 | 田辺市民総合センター　４階交流ホール |
|  | ○社会教育委員出席者10名：　松場議長、尾崎副議長、稲垣委員、加藤委員、近藤委員、坂本委員佐久間委員、中根委員、西川委員、柳川委員欠席者３名：　九鬼委員、小山委員、砂野委員○事務局７名：　佐武教育長、前川教育次長、狼谷生涯学習課長、那須生涯学習推進係長尾﨑公民館係長、森口生涯学習推進係主事 |

１．開会　教育長挨拶

２．議長挨拶

３．説明事項・報告事項

（１）令和４年度田辺市生涯学習フェスティバル及び社会教育功労者表彰について

（２）令和４年度情報モラル研修会について

（３）第18回市民スポーツレクリエーション祭について

（４）令和４年度「植芝盛平翁の故郷を訪ねて」について

（５）文化振興課の行事予定について

（６）南方熊楠顕彰館の行事予定について

以上の項目について、事務局より一括して説明及び報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

A委員：図書館協議会の会議が書面で開催されましたので、その資料を読んで意見というか感想とい　うか出しました。お返事はまだないですが。また、新聞で文部省から拉致問題の蔵書を拡充してくださいと図書館へ依頼するという記事を読みましたが、図書館は自由に関する制限がありますので大変だろうとそれに関してもご苦労様ですとメールをさせていただきました。もし、それらに関して何かあるのであれば教えていただきたいと思います。

事務局：書面決裁の際にご意見をいただいたということですよね。

A委員：はい、そうです。

事務局：書面決裁の結果も含めて、委員からいただいた意見についても回答すべき内容については図　書館で対応したいと思いますのでよろしくお願いします。

議長：図書館のことで何か意見があればA委員を通じて言っていただけると思いますので個人的にでも会議後にでもお聞かせ願えたらと思います。

４．協議

（１）生涯学習推進計画について、事務局より報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

A委員：たくさんのことをまとめていただいてありがとうございます。質問なんですが、資料14Pの課題（２）のところで38の公民館・分館があって、分館は18ですけど、中辺路で分館の建物がなくていろいろな活動が出来づらくなっている地域があります。そういう建物がない青空の公民館・分館が田辺市内で他にあるのかなと。私が知っているなかでは、近野分館は分館の建物がなくて美術館の横に机とコピー機と事務をされる方の小さな部屋があります。近野分館の会議はそこでしますとなっていますが、とても出来るような状態ではなくて、他にも対応できないところがたくさんあるんだろうと思います。田辺市のなかで青空の公民館・分館がどれぐらいあるのかなと思います。

事務局：条例上でいうと地区公民館・分館について、今ある建物に設置しており青空公民館・分館は　ありません。しかし、ご指摘いただいたとおり、設置している建物が現実的に公民館の機能を果たせるかどうかについては出来ていない場所もあります。条例上の設置ですので全てが生涯学習課の所管というわけではなく、自治振興課や農業振興課などの所管であったり、町内会の会館にも設置させていただいています。そうしたなかで実際に公民館活動が出来る施設であるかどうかについては、出来ていない部分もあります。

A委員：ありがとうございます。パイプ役ということもありますのでそういう意見があるということ　を伝えるべきだと思っています。私が学校現場にいる時のことですが、2011年の台風災害で道が分断されて３日間電気が使えなくて、地域の人達がすごく落ち込んでいて自分たちでやれることがないかと歌の会を立ち上げたんです。練習する場所がなかったのですが、当時の校長先生が非常に協力的で小学校の多目的ホールを月２回お借りして、10年続いているんです。ところが、コロナが流行してから、朝になると子ども達が来るので、万が一のことを考えて自主的に使用をやめたんですね。そして、色々な場所を転々としながら歌の練習をするんですけど、悲しいことにそういう場所がないんですよね。地域の会館をお借りしたんですけど、お金がないから網戸がなくてトイレが壊れていて使えない。そうしたなかでマスクを着けて虫がいるなかで練習をすることもありました。中辺路でいっても他にサークルがあるんですけど、そこは公民館を使えるので安心して練習が出来ます。田辺市内で多数住んでいるところと比べて、大変少ないとこでの文化的な活動がいかに保証されていないかということを私自身が感じたのでこういう場で声にしてお伝えしなければと思います。10月から再度、月２回、夜の練習で使わせてもらえませんかというお願いを校長先生にして、検討していただいている状態なんですけど、そういう地域もあるんだということだけお伝えしたいと思います。

B委員：私は旧市街地に住んでいるので限界集落というかそこらへんの事情を分　かっていなくてA委員のお話を聞いて初めて大変な状況なのを知りました。例えば、13Pの３．一人ひとりの学びを支える環境と体制の整備の課題（１）の下から３行目の庁内ネットワークを構築してとあるんですけど、以前から生涯学習推進会議がほとんど開催されていないということを指摘させてもらっていて、やっぱり社会教育、生涯学習は縦割りではなくて横断的に進めていくべきではないかと、そのためには会議を開催することが大事なのではないかということを何回かこれまでも言わせてもらったことがあります。また、別の意味で生涯学習課を中心とした庁内ネットワークの構築とは、例えば、住民の人が集まれる施設がない所であれば、色んな人と連携して小学校や地域の会館などをお互いに協力して使えるようにしていくべきではないかと感じました。それから、生涯学習推進計画については元号だけだと計算しにくいので西暦との併記にしてくださいと言ったのを取り入れてくださりありがとうございます。また、重点アクションプラン３の公民館活動の実施というところもやっぱり公民館での活動が大事であり、社会教育、生涯学習について公民館は拠点であってすごく大事な地域のなかの学習の場ということは地域シンポジウムでも話がありましたので、明記していただきありがとうございます。

C委員：今、A委員がおっしゃっていた分館のことで大塔でも生涯学習の計画の事前協議をやったんですね。各分館長からアクションプランがどんなのがあるか６つぐらい挙げたなかでどの項目についても移送の問題で参加出来ないと分館長から出ましたので、今まで鮎川を拠点にしていたのを大塔ではせめて三川、冨里の分館単位で事業を実施しようという話になってアクションプランを来月に向けて策定します。そうしたら、分館長がそこまでしてくれるのは良いんやけど三川の奥は誰かが迎えに行かないとしょうがないので予算の問題が出てくると。アクションプランの最後に自然を大切にするSDGｓのことがあるので従来やっている計画を進めて、子ども達の未来の持続可能な開発というのを入れようと、百間山を注目した場合、それも移送の問題で名目入れたけど、バスは高いし、参加するのはどうするのかと。それであれば、キャンプや夏祭りや自然体験などの既存の事業に入れ込んで、ごみの問題など持続可能な開発について１ページでも入れるということで落ち着いては来ているんですが、建物だけでなく、分館の抱える問題はすごく大きいと思います。移送の問題が一番大きいのにそれに関わる予算がつかない。せっかく田辺市がSDGｓ未来都市に選定されたのに、国から補助金をその予算に回せないのかという話になりました。同じ田辺市内でも僻地かどうかで差が大きくあることを頭の中に置いといていただけたらと思います。

事務局：先ほどお話にありました学校を使わせてほしいという件ですが、旧市内の学校でも地域の　方々に音楽室をお貸ししていることもあります。学校の施設も市の建物であり、体育館も運動クラブにお貸ししていますし、文化活動においても学校の施設を活用していただくということでよろしくお願いします。

D委員：移送の話が出たので。赤字ローカル線問題の話が出ていて、再来週に協議会が立ち上がる予　定でそのメンバーになっていまして。私のもう一つの専門が交通なのでちょっとその話をします。２つぐらいの前のアクションプランを策定する時に移送の問題の話も出ていて、住民バスを上手に活用できないかと。使い勝手が悪いとかはあるかもしれませんが。よくある事例なのが、事業の時間が決まってから、ダイヤを調べてみたら時間が全然合わないというのがあります。この会議も10時15分開始になっていますが、10時開始だと９時58分に田辺駅に電車が着くので、車で行かざるを得なくなります。そういうことを考えると、三川分館の場合だと一つの検討策として、全部には当てはまらないですが、一つぐらいの事業は住民バスに合わせたカリキュラムを落とし込むというのも一つかなと思います。その時間が長ければ長いなりに昼ご飯をはさむとかできます。毎回それをやるのは酷だと思うんですが、年１回のこの事業は住民バスの時間に合わせてやりますと。中辺路だと週休ですので、何曜日のこの時間に合わせてやりますと。ただ、昼便に合わせると夕方便までかなり時間があるので会議が遅くなる問題があるんですが。その場合は、早めの夕食を食べるとかで対応ができます。コロナなのでご飯は出来るかどうかという問題もありますが。移送の方に事業を合わせるということをやってみても面白いのかなと思います。ローカル線問題もそうなんですけど、一般的には何かをするために移動するので、何かするという方を交通にもうちょっと合わせないとそのギャップが常にあるので車の方が便利となってしまっています。

議長：皆さんにいろいろ意見や知恵を出していただいて、ぜひ計画倒れにならずに計画通り実現されたら良いなという思いで聞いていました。確かにバスの問題は、行きは良いけど帰りは大変という事があります。上芳養なのですが、田辺に出てくるのでも帰れないということや帰るのに２時間ぐらい田辺のなかでいないといけないといった色んな問題があります。なかなか実現していくというのは大変だと思うのですが、計画倒れにならないように知恵を絞っていければと思います。

（２）人材育成事業企画部会について、事務局より報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

議長：一つ質問よろしいですか。中芳養中学校編で対象が２年生と３年生で場所が音楽室で入れ替　わるわけですよね。最初に主催者挨拶がありますが、授業になるので２年生と３年生の時と２回挨拶ということになりますか。最後にも主催者挨拶となっていますが、中学２年生と３年生の始めと終わりに各２回主催者挨拶をするのですか。対象者が変わるのであれば、挨拶を誰向けにするかという問題もあると思います。生徒向けに大人たちの協力もあって素晴らしい体験を大事にしてくださいねという挨拶になるのか、この講座を出来たという事を事務局や学校や南部高校に感謝しましょうという挨拶になるのか。学校へ行かせていただいて生徒が聞く挨拶で生徒が対象になるとすれば２年生と３年生と話さなくていいのですか。

E委員：学校としては、授業の一環で考えているので進行も担任の先生が中心となって授業のスタイ　ルでしようと考えています。

副議長：間は慌ただしいのもあるので後半は、担任の先生が今から３年生やります。山本さんはこういう人です。と始まってもらって、最後に主催者挨拶で良いと思います。

議長：スタイルとしてそうするのであればそれで良いと思います。ただ、２年生と３年生で同じパターンでしなくていいのかなと。

E委員：最初と最後に主催者挨拶があれば、間になくても大丈夫です。

議長：副議長が中学２年生と面識があるので最初に挨拶をして、最後に私が挨拶でいいですか。　やはり何度も顔合わせしている方が挨拶する方が良いと思うので。

E委員：ありがとうございます。この２年生の取組みなんですが、この間、弁慶市の方に参加させて　いただいて紀伊民報にも取材いただいて、副議長にも大変お世話になりながら、コロナ禍で職場体験も難しいなかで実際に商品を作って値付けして自分の力で販売するという子どもにとって良い経験が出来たなと。始めのほうは緊張してたんですが、いろいろと声を掛けてもらいながら、段々と慣れてきて40分ほどで完売しました。最初はずっと並んでいて、このまま売り切れるのかなという勢いだったのが、途中で止まってどうしようとなって、看板を持って声掛けに行ったりするのも恥ずかしがっていたんですけど段々慣れてきて大きな声が出るようになったり、御釣り間違いがないかとかお金の計算をしたり良かったなと。何より嬉しかったが、並んでいる方々の食べるの楽しみにしてるよなどの直の声を聞けたことです。なかなか出来ない体験を経験することで子ども達も一回り成長できたかなと思います。その締めということで、そういうことを経験して話を聞くと、子ども達も全く違った物を受け取ると思うので、そこら辺をしっかりと見ていきたいなと楽しみにしています。それから、３年生もいよいよ進路の選択が本番になってきていまして各高校の体験学習の方もスタートしているので、そういう意味でもいろいろな外の話を聞いて刺激になればと思っています。音楽室は３階にあって、普通の教室よりもちょっと広い場所になりますのでお越しいただければと思いますのでよろしくお願いします。

B委員：その他講座について次の部会にという話がありましたけども、せっかくなので部会に参加されていない方でこういう講座をやれば楽しいんじゃないかという意見があれば、部会で参考に出来ると思うのでよろしくお願いしたいと思います。

議長：次回の人材育成事業企画部会までに何かありましたら、事務局か委員さんにお伝え願えたら、意見として部会に反映して提案したいと思います。

D委員：今回、田辺高校が出来ないということで高校生向け講座が一つ減るというなかで、今まで高校生に届ける形で進めていて、学校に届けてはいるんですけども。今の高校生はどこから一番情報を収集しているのかなと。もし、その方法が分かれば、そこに新しく仕掛けていくのもありなのではと思います。どれだけ聞いているかは別としてFM田辺の４時スク！はまさに高校生向けですよね。高校生が喋ればその友達は聞くかもしれない。例えば、ラジオというツールをアレンジして、私たちの世代が喋ってもあまり聞いてくれないと思うので当事者にどう話してもらうかという工夫はいると思いますが、４時スク！に絡めていくとか。TikTokしようとまでは言いませんが、高校生の情報収集に届く取り組みでも良いのかなと思います。まだ案がなくて、検討できればと思います。

副議長：この間、紀伊民報に載せてもらったんですけど、11月12日に久しぶりに田辺エキストラ商店街をやるんですが、新しい店ばかり盛り上がるので既存店をどうするかということで高校生に頼もうとなりました。それで、神島高校がそのプロモーションを提供してると聞いたので動画を作ってもらって、出す先をどうするかといういうことで自分達ではやっぱりYouTubeかなと言ってたんですが、高校生に言わせたらTikTokとインスタという話になっていました。本当にそういう現場を知るというのは大事だし、何が響くかというのは僕らも全然分かっていないし、ちょっと研究しないと駄目だなと。だからこそ、今回の田辺高校のことは本当に残念で、代わりに田辺工業高校か熊野高校に行ってもいいのかなとちょっと思いました。

F委員：私の個人の話なんですが、熊野高校に呼ばれて労働問題について講演じゃないですけどやって欲しいと。社会教育委員として人材育成の話を聞いているから、ニーズってどういうとこにあるのかなだけれども、それがなければ、仕事が仕事なので上から労働問題はこうですよと話すだけではあまりニーズも捉えきれないし、TikTokとかで課金がどうなのかとそういうとこに入り込んで話のポイント口を見つけていかないといけないのでまさに私自身としては社会教育委員として人材育成の高校生のところに目が向いてアンケートも読ませていただくので、そういうとこからの引っ掛かりを捉えようとしているんですけど、やっぱり上から大人が行事として法律講座を開いてください。今度は労働問題ですと言われても、労働問題について高校生に何を話すというのがすごい悩みのところなんです。

B委員：部会の時にも少し話をしたんですけども、以前たなべるで移住者の妻たちという講座で、私自　身も京都に行った時に友達がいなくてすごく辛い思いをしたことがあるのでよく分かるんですね。すごく好評だったのでパートⅡ的に新しく移住してきた方々が気楽に話し合える場があってもよいのかなと、又、生活していく中での課題等を話し合える場があってもよいのかなと思い、提案させてもらいました。

事務局：中芳養中学校だけでなく、他の中学校でもお弁当を開発したり、農業教育を充実させたりして　います。今後、他の中学校においても検討していただければなと思います。また、高校については、みなべ高校や熊野高校は卒業してから地域を支えてくれてる方が多いです。そして、南紀高校は働きながら学校に行ってる子や通信制で頑張っている子もいて、田辺市を支えてくれている卒業生が多くいます。高校を卒業して専門学校や大学に進学する子だけではないということに焦点を当てていくことも大事かなと思います。

C委員：今おっしゃられたのを聞いて、各高校の紀南地域に残っている卒業生の割合を知るのも一つの手がかりになるのかなと思いました。

５．その他

　B委員・D委員より、令和４年度近畿地区社会教育研究大会［奈良大会］について報告。

　C委員より、公民館報について提言。

　B委員より、第３次田辺市男女共同参画プラン策定に係るアンケート調査について提言。

６．閉会　副議長挨拶